れた自分の「よさ」について再認識することができ，また，学習内容をもう一度振り返り，理解の深まりを確認することができる。それが次の学習への意欲付けになると考え計画した。

③　相互評価〜「ふりかえりカード」「贈る言葉」

今回の評価方法の柱となる「自己評価」を確かめ合い，お互いを高め合うものとして相互評価を計画した。具体的な手だてとして，まず「ふりかえりカード３，４」の中で，グループでの話し合いや調べ学習，見学学習で表れる「よさ」について「友達の感心したところを書きましょう」「友達の考えでおもしろいと思ったことを書きましょう」というような項目で目を向けさせていく。そして，それらをまとめ，単元の終了時に「贈る言葉」というカードを用い，特に隣の席の友達のよいところを書き，交換させる。この段階で，「よさ」を認め合いながら，高め合いに発展していくと考えた。

④　教師からの評価〜「学習の記録」「メッセージカード」

教師からの評価は児童を診断する働きがあるが，今回は児童の「よさ」を総合的にとらえ，それによって自己評価を援助し，学習への意欲付けを図る手だてとして計画した。具体的には，導入，追究，まとめの各段階で教師が行う「発言，ワークシート，ノートの分析」の評価を◎○△の３段階で表記し，一覧表にして「学習の記録」とした。

ただし，記入の際，「○」は便宜上空白とした。その記録と，「ふりかえりカード」「贈る言葉」の内容を総合的に判断し，それを児童の「よさ」として「メッセージカード」に記入し一人一人に配る。それが，児童の自分自身の「よさ」への気付きや再認識を促し，学習への意欲を高めることになると考えた。

5　授業の実際と分析・考察

(1)　授業の実際

「明治の世の中」と「掛田の生糸」に分け，授業の様子を簡単に述べる。

①　「明治の世の中」

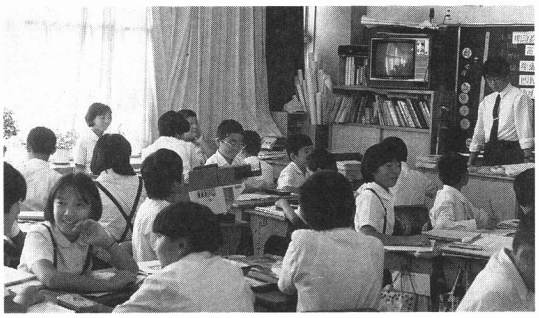
1860年代のヨーロッパと日本の様子をスライドやパネル写真で比較させ，「岩倉使節団」の中心人物である大久保利通がヨーロッパを初めて見た感想を予想させた。児童は「日本にもこんな文化を取り入れたい」「こんな文化の進んだ国と戦争したら負けるぞ」と大久保の立場になって考えた。これらの児童の意見を集約する形で学習課題を設定し，自分が大久保ならどのようなことを行うかを考えさせながら，調べる視点をまとめた。

調べ学習は，ワークシート（「おたすけシート」）を使って行った。生活班を基本としながらも児童の友人関係を配慮してグループを編成した。

まとめでは，調べ学習をもとに，明治政府の政策の内容やその意味を考えさせ，明治政府が目指した国家像を話し合わせた。

○　外国のような文化の進んだ国
○　近代的で発達した国
○　天皇を中心としてまとまった国
○　外国と戦争しても負けない強い軍隊の国

などが出された。



（グループでの話し合い）

最後に「このころ，掛田はとても大きな役割を果たしていました。どんなことでしょう？」と疑問を投げかけて授業を終了し，「掛田の生糸」につなげた。